

なん
か
わ
い
い



おいでよ!

花鳥画の世界

鑑賞ガイドブック

 茨城県天心記念五浦美術館
TENSIN MEMORIAL MUSEUM OF ART, IBARAKI



鑑賞ガイドのみかた

このガイドブックは展覧会をより楽しんでいただくために、さまざまな角度から鑑賞のポイントに掲載しました。展示室内の作品にガイドブックの紹介マークがある時には、このガイドブックを見てみてください。作品をより楽しめるヒントが隠されているかもしれません。

オススメの鑑賞方法

最初に

ガイドブックやキャプションを見ずに、展示室内の作品を鑑賞してみよう。

次に

ガイドブックやキャプションを見ながら作品をじっくり鑑賞したり、紹介されている作品を探したりしてみよう。

そして

自分だけの「なんかかわいい」ポイントを探してみよう。

紹介マークと内容



作品をじっくり見てみよう



自分なりに考えてみよう



課題にチャレンジしてみよう



「なんかかわいいポイント」の一例です

「なんかかわいい」のススメ

この展覧会は、「なんかかわいい」をキャッチフレーズにしています。直感で「かわいい」「すてき」「なんかいい」と思える作品を探してみてください。描かれている鳥や花、色や形などいろいろなところに「なんかかわいい」が潜んでいるかもしれません。

見方や感じ方は人それぞれ。自分だけの「なんかかわいい」を見つけよう。

カワセミくん



花鳥画ってなあに？

花鳥画とは、草花や鳥などを描く東洋画の主要ジャンルの一つです。

中国で生まれ、北宋時代(960-1127)に確立した花鳥画は、日本の四季の中で育まれていきました。明治時代以降は西洋写実表現の影響を受け、画家の個性が重要視されるなどして、大正・昭和・平成とさまざまな表現が生み出されました。また、花鳥画は花や鳥だけでなく、動物や昆虫、魚介類など生物全般をモチーフに描いた作品も含まれます。画家たちは命あるものを敬い、自然や鳥、動物などをとおして、画家自身の思い描く美の世界を詩情豊かに描いています。



大橋翠石「猛虎之図」制作年不詳 個人蔵

「虎」の漢字は「虺」とも書きました。

大橋翠石(1865-1945)は表現を変えて虎の絵をたくさん描いています。

これも花鳥画？！



京都画壇の画家たち



上村松篁「桃花」昭和56(1981)年 国際交流基金蔵

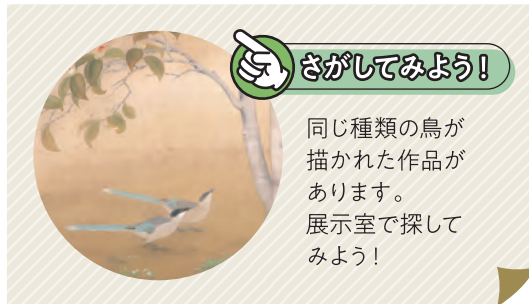
現代日本画壇を代表する花鳥画家、上村松篁(1902-2001)の作品です。松篁の母は美人画家の上村松園、息子は花鳥画家の上村淳之で、親子3代にわたる日本画家の家系です。松篁の花鳥画は写実と装飾を融合させた格調高い表現が特徴です。

🔍 本物のオナガと比べてみよう!

オナガは、背から尾羽根にかけての水色が特徴的なカラス科の野鳥です。松篁のオナガは本物のオナガと色や形はそっくりですが、写真のような写実性を前面に出さず、その特徴をとらえながら装飾的に描いています。オナガがもつ愛らしさ、しぐさなどが柔らかな筆致によって見事に表現されています。



オナガ



👉 さがしてみよう!

同じ種類の鳥が描かれた作品があります。展示室で探してみよう!



愛らしい2羽のオナガ、ピンク味を帯びた可憐な桃の花、画面全体の柔らかな色合いにも注目!

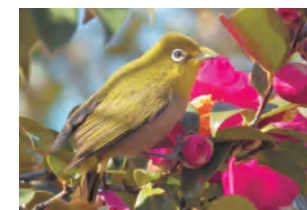


山口華楊「春盡」昭和56(1981)年 国際交流基金蔵

山口華楊(1899-1984)は、数多くの花鳥画や動物画を描き、動物画家としても有名な画家です。円山・四条派の流れを汲んだ徹底した写生を基に描かれる作品からは、生命感に満ちた温かみを感じられます。「春盡(春尽)」とは、春の終わりという意味ですが、椿の開花時期は2~4月頃。旧暦では春は1~3月にあたり晩春の頃となります。

🔍 2羽の鳥を見つけよう。鳥たちは何をしているのかな?

真っ赤な椿の花が咲き誇る作品中にいるのは、目の周りが白い特徴をもつ2羽のメジロです。メジロたちは椿の花に誘われ、「どの蜜を吸おうかな」と考えているのでしょうか。それとも2羽で追いかっこして遊んでいるのでしょうか。愛らしいメジロのやりとりを想像してみてください。



メジロ



2羽のメジロの愛らしさに注目!

魅惑の孔雀コレクション

さがしてみよう!

孔雀が描かれた作品は全部で4つあります。展示室で探してみよう!



にしだしゆんえい 西田俊英「華孔雀」平成15(2003)年 個人蔵

表現の違いに注目してみよう!

中国で「百鳥の王」と言われる孔雀は、あらゆる災害をとり除く力を備え、天変地異を鎮める霊鳥として人々から重んじられてきました。王に必要な徳をもち、富貴の象徴とされることから広く好まれた画題でした。作家によって孔雀の描き方も違い、写実的なものから幻想的なものまで表現もさまざまです。

羽1枚1枚のていねいな描き込みは圧巻!



ごとうこうすけ 五島耕敬「孔雀乃図」制作年不詳 個人蔵



かまくらひでお 鎌倉秀雄「麗」平成10(1998)年 茨城県近代美術館蔵



ながたしゆんすい 永田春水「萬年孔雀図」昭和12(1937)年頃 茨城県近代美術館蔵



作家によって変わる孔雀の表現が魅力的!

五浦の作家

木村武山の花鳥画

鶴は健康長寿、繁栄の鳥として縁起が良いとされているよ!



木村武山「群鶴(其一)」大正13(1924)年 個人蔵

🔍 鶴たちの配置に注目してみよう!

鶴の群れが前後リズムカルに配置されることで画面の奥行きを表現し、落ちて
いる羽が地面を感じさせています。左端の鶴が左方向に首を曲げ、右端の鶴が
画面途中で切れていることから左右にも広がる空間を予感させます。



木村武山

茨城県笠間市に生まれた木村武山(1876-1942)は、
岡倉天心に認められ、五浦で横山大観らと共に研鑽を
積み、のちに再興院展の中心画家として活躍しました。
生涯の中で、歴史画や華麗で優雅な花鳥画をたくさん描
いています。



軽く柔らかな羽とその重なりや、クチバシ、脚の質感など細密で卓越した武山の写実性は圧巻!



右側の空間が空いているのはなぜだろう?

右側に空間が広がる大胆な構図となっています。画面中心より上の葉は舞い落ちる葉を、烏骨鶏の足元の葉は地面の落ち葉を表現しています。武山は、落ち葉の配置によって、見る人に空間と地面を感じさせています。二羽の烏骨鶏は何を見ているのでしょうか。右側の大きな空間を通して、色々なストーリーが想像できます。



木村武山「烏骨鶏」昭和8(1933)年 茨城県近代美術館蔵

様式美の表現

描かれている
ものの形を
よく見てみよう!



2つの作品の似ているところはどこだろう?



木村武山「秋草図屏風」大正5~6(1916-17)年頃 個人蔵



重岡良子「薰白梅・華紅梅」平成25(2013)年 茨城県近代美術館蔵



重岡良子(1953-)は花鳥画、特に草花をモチーフに明快な作風の作品を発表しています。この作品は琳派の装飾性を独自の感覚で捉え直し、花が正面を向くように描かれています。また、画面中央に縦方向の帯を置くことで独特の空間構成を試みています。

金の背景や形・色・配置などを琳派に倣って装飾的に表現しています。写生を基礎にした草花は実在感も併せ持っており、武山が琳派の表現を近代的にとらえた成果と見ることができます。

琳派とは?

琳派は、江戸時代以降、近現代に至るまでくり返し表現されてきた芸術様式で、尾形光琳(1658-1716)にちなんで「琳派」と呼ばれました。形を単純化したり、同じ絵や模様をくり返し使ったりするなど、大胆なデザインと構図が特徴です。絵画だけでなく、工芸にも用いられました。



模様のように
デザインされた花



琳派に倣った
流水紋のような模様



空間美を感じる迫力の構図とデザイン性が魅力!

花鳥画表現の広がり



小林巢居人「春雪」昭和52(1977)年 茨城県近代美術館蔵



3羽の鳥は何を話しているのかな？

小林巢居人(1897-1978)は茨城県龍ヶ崎市出身の画家で、水田や川、湖などの風景やそこに生息する生きものや植物をテーマにした作品を数多く描いています。

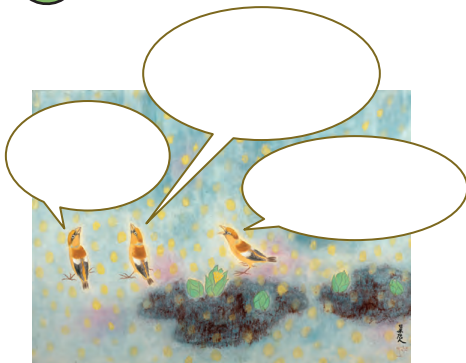
この作品で描かれているのはシメという鳥で、春になると飛び立つ渡り鳥です。空から湿った牡丹雪が舞い降りる中、芽吹いたふきのとうが春の到来を告げています。そのかわらで3羽のシメが「春が来たよ」とおしゃべりしているのでしょうか。楽しい会話を想像してみてください。



シメ



ふきだしに会話を書いてみよう！



3羽のシメの表情、ちょこんと生えたふきのとう、水玉のような雪などかわいいがいっぱい！



小林恒岳「蓮池(雲流れる)」昭和50(1975)年 茨城県近代美術館蔵



作者がこの作品で伝えたかったことは何だろう？



ズームアップしてみよう！
目がたくさんあるよ。



小林恒岳(1932-2017)は日本画家の小林巢居人を父にもち、自然をテーマに数多くの作品を描きました。日本が高度成長期を迎えた頃、故郷の豊かな水郷の自然が破壊されている姿を目の当たりにし、昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて環境破壊に警鐘を鳴らした作品を手掛けています。

蓮の咲き誇る池は真っ赤に染まり、鷺たちは何かを叫んでいるかのようです。後方には鳥や魚といったたくさんの生き物たちの死骸が流れる川が描かれています。生き物たちの悲鳴にも似た叫びは環境汚染を作りだした人間へ向けられたものかもしれません。



デフォルメされた生きものたちの姿とデザイン性に注目！



那波多目功一「寂光」平成25(2013)年 茨城県近代美術館蔵

Q 光に注目してみよう!



松本祐子「月の雫」平成7(1995)年 茨城県近代美術館蔵

光が醸し出す幻想的な世界に注目!

那波多目功一(1933-)は茨城県ひたちなか市出身の画家で、写生に基づく繊細で優雅な作風が特徴です。この作品では、花菖蒲の群生が薄明かりに照らされて幻想的な雰囲気^{かみ}を醸し出しています。その光はまるで見るものに安らかな静寂をもたらしてくれるようです。

松本祐子(1957-)の作品では、画面中央^{よしやみ}の宵闇の中で咲く3本のケイトウがその身に月の光を受け、淡い光を放って浮かび上がり幻想的な空間を生み出しています。

どちらも光を感じる魅力的な作品です。

この人は何をしているのかな?

口元に注目してみよう!



田中武「『噂』〜十六軼漢図シリーズ〜」平成27(2015)年 茨城県近代美術館蔵

この鳥は「ウソ」といいます。



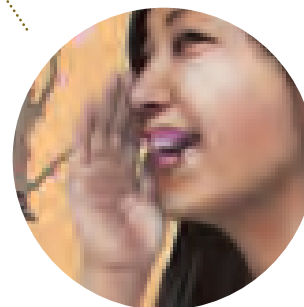
ウソ

手に持っているのは何かな?

作者はこの作品でどんなことを表現しているのだろう?

この作品は、仏教絵画の画題のひとつで高僧を描く「十六羅漢図」になぞらえて、人間の欲や煩惱などをテーマに描く連作で、花鳥画と現代の人物像を組み合わせた点が特徴的です。作者の田中武(1982-)は福岡県出身で、太宰府天満宮で行われている「鶯替え神事」にちなんだ鳥の鶯や、天満宮の紋に使用されている梅が描かれています。「ウソ」という鳥や口元のモザイク、手に持つ携帯電話が、SNSや噂話などを好む人間の欲望を暗示しているようです。

え?
口にモザイク?



現代の女性像と花鳥画の対比が魅力的!



フジイランソウ「オオゲツヒメノカミ」平成24(2012)年 茨城県近代美術館蔵

大宜都比売神(オオゲツヒメノカミ)は食物を司る女神で、古事記の中で鼻・口・尻から食物を取り出し、その死体からも^{かいこ}蚕や五穀が生じたといわれています。身近でありながら神聖な動物である「鹿」を通して「自然」を象徴し、命に必要な全てを備えている神様として描くことでこの神話を表現しています。

おいでよ！
花鳥画の世界

鑑賞ガイドブック

会期 2022年2月11日(金・祝)～4月17日(日)
主催・会場 茨城県天心記念五浦美術館
〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿2083
TEL 0293-46-5311
編集・発行 茨城県天心記念五浦美術館 ©2022
執筆・構成 茨城県天心記念五浦美術館 主任学芸主事 木内智美
制作 八幡印刷株式会社

[表紙図版(左上から反時計回りに)] 奥原晴湖「富貴飛燕 芙蓉翡翠」(部分)明治28(1895)年 茨城県近代美術館蔵
田中武「噂～十六軋漢図シリーズ～」(部分)平成27(2015)年 茨城県近代美術館蔵 / 木村武山「群鶴(其一)」(部分)大正13(1924)年 個人蔵
小林巢居人「春雪」(部分)昭和52(1977)年 茨城県近代美術館蔵